

令和元年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校	校長名	志村 剛和
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活をしている（生活のリズムを確立している）」と自己評価する生徒70%以上 ○あいさつができる生徒の育成	○62% 1年60% 2年58% 3年69% ○84% 1年87% 2年83% 3年80%	B	○規則正しい生活をしている生徒の割合が62%であり、目標の70%を下回った。原因の多くはスマートフォンがらみ（SNS・ゲーム等）が考えられる。改めて、スマホ使用に関して規則ではなく、意識の是正が求められる。 ○挨拶については昨年をやや上回ったが、現実はまだまだ改善の余地はある。まずは部活動単位で指導の徹底を図りたい。
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心を喚起する	○授業を大切にする生徒、主体的に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容がよくわかる」と自己評価する生徒80%以上	○80% 1年83% 2年80% 3年78% ○79% 1年78% 2年74% 3年85%	A	○生徒の知的好奇心が満足できる高度な内容を含んだ授業展開ができた。 ○生徒の授業理解度が高くなるように、さまざまな観点から授業展開を模索した。今後は、新テストや新学習指導要領を意識した授業方法の検討を進める。
ウ	低学年より高い志の育成に努め、進路実現を図る	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○第1志望（3年次当初）の大学に出願する生徒の割合70%	○79% 1年84% 2年81% 3年73% ○46%	B	○進路行事を通して、高い目標を持つ意識づけができた。生徒が高い目標を持ち続けるために、自己管理能力を高め、学習習慣を確立することが重要である。 ○来年度からの新テストの傾向変更を意識してか安全志向に流れた可能性がある。
エ	全員が学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに社会に貢献する	○学校行事に積極的に取り組む生徒90%以上 ○部活動に積極的に取り組む生徒90%以上 ○1部活1社会貢献活動	○90% 1年92% 2年90% 3年89% ○88% 1年91% 2年87% 3年86% ○26部/37部	A	○昨年度を上回る達成状況と目標値に達することができた。文化祭のみならず日常の委員会活動にも積極的に参加させたい。 ○部活動は例年と同様積極的に活動している。教育委員会の部活動指針を考慮し、両立できる環境を整える必要がある。 ○社会貢献活動は必須にせず、無理のない範囲でできる活動を検討して取り組んでいきたい。

様式第3号

オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間 年2回実施 ○図書館開放 年300日以上	○予定通り2回実施した。 ○右の理由以外は予定通り実施した。	A	○朝読書は、全職員の理解と協力のもと、担任、副担任が分担して監督し、例年通り実施できた。 ○今年は224名の保護者ボランティアの協力で294日の開館が実施できた。 ※エアコンの故障によるボランティアの休日開館の中止（1月～）、台風による臨時閉館以外は予定通り実施。 ○県読書感想文コンクール、明治大学読書感想文コンクール等に15名の生徒が上位入賞した。
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	○年度当初にアイスブレイク体験（職員・生徒）、学期1回以上の校内情報交換会の開催 ○健康観察を通しての情報共有 ○学習環境の美化に努める生徒の育成、学期に1回の安全点検	○職員・生徒で構成的グループエンカウンターを体験した。 相談室連絡会議を月1回程度開催した。 ○毎日養護教諭が健康観察と保健日誌を作成して回覧した。 ○70% 1年78% 2年69% 3年70%	A	○年度当初、職員研修で教職員を対象に、LHRでクラスごと生徒を対象に、構成的グループエンカウンターを実施し親和的な人間関係づくりを行った。 相談室連絡会議を月1回程度開催し、生徒に関する情報交換と問題を抱える生徒の対応について検討した。 ○『健康観察』で生徒の出欠状況を調査し、学年主任・管理職間で情報を共有した。『保健日誌』で保健室利用状況を把握し、特にメンタル面で注意の必要な生徒について、関係各所と連携して早期対応することができた。 ○日々の清掃、環境整備活動を通して生徒の美化意識向上に努めた。学習環境の安全確保のためには、更なる施設・設備の改修・改善が必要である。
キ	職員の校内外の研修を充実させる	○「育てたい資質・能力」「カリキュラム・マネジメント」を意識した研修機会の充実	○積極的に研修の機会を設けた。	A	○研修課主催の研修の他、教育相談、保健課、学校訪問報告、不祥事根絶等を含め月1回の校内研修を実施することができた。リーダーシップ育成研修には全職員が参加した。
ク	土曜オープンスクールの充実を図る	○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1,200人以上	○7回実施、のべ1,366人 ○ホームページを改装し、中学生への広報、情報発信が充実した。	A	○今年度も多くの参加者があった。多すぎて不満が出る回もあったため、人数制限と中学校の負担軽減に向け、来年度は事前申込方法を変更する。 ○2学期以降、ホームページを一新し、容量を大きくしてレスポンス化、情報の探しやすさに努めた。またブログ形式で新しい情報を随時更新できるようになり、更新頻度が上がった。中学生のみならず、地域や同窓生への重要な情報発信源となっている。

様式第3号

ケ	<p>校内外のプログラムの活用を通し、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する。</p>	<p>○参加生徒、教職員の視野の拡大 ○各種プログラム参加者の増加と意識の向上</p>	<p>○台湾の学校交流、WWL 事業(*)では、十分な成果が得られた。 ○英語の体験活動を通じて英語力を伸ばせた。</p>	<p>A ○コアスクール事業を発展させ、多くの体験活動を生徒に提供した。生徒は積極的に参加し、成果をあげた。台湾修学旅行では、主体的・対話的な学びのもと高い学力を育み、体験を通して社会性を育てる一流校を訪問し、英語や日本語を話す生徒たちと交流できたことは大きな刺激となった。 WWL 連携校として、海外留学した生徒たちが英語での全国発表会に参加し、来年度の研究につなげた。 教員は役割分担して活動の指導に当たり、視野を広げた。 ○英語ディベート交流会や数日間の外国人との英語研修等に参加した生徒たちは、体験を通して英語活用能力を高めた。こうした機会を契機に英語スピーチ日本一になる生徒も現れた。</p>
コ	<p>「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。</p>	<p>○働き方改革を意識した計画的な業務遂行 ○教育活動の検証、業務改善等、組織的改善の推進</p>	<p>○一時的に業務が集中しないよう事前に行事を見据え、時間をかけて準備できるようにした。 ○行事を見直して業務を減らした。</p>	<p>B ○多忙化解消のため、毎月のテストを、次年度は効果を維持しつつ1回減らすことにした。 土曜授業の振替では、毎日該当者の名前を掲示し、声掛けを行うことで取得促進につながった。 テスト採点や授業準備、部活動等のため定時に帰れる教員は少ない。 ○毎月 80 時間以上超過勤務する職員は 10 人以上いる。次年度以降も引き続き課題となる。 ○毎月職員安全衛生委員会を開き、職場環境や職員の健康状態等の情報交換を行った。施設面の改善には早急に対応できた。</p>

*WWL : ワールドワイドラーニング(他機関と協働した高度な国際人を育成する取組)